

# OB会報

第四号

横浜国立大学

ワンダーフォーゲル部

OB会 発行  
1965. 10. 20

## 山小屋のこと

山小屋建設準備委員

郡司直樹 (四期)

その一 山小屋設立準備会の経過

前号会報にも記した如く、場所柄から期待していた上野これ迄の手紙による問合せでは恰好の候補地が得られなかつたので、五月からは現地偵察による活動を開始した。この活動は第一次山小屋偵察と称し、現在なお継続中である。こゝに五月の現役側二グループによる上越地区偵察の結果を略述する。

群馬県側では、谷川温泉大穴、綱子スキー場。藤原湖周辺を調査したのであるが、

し、電気も引いてある。建物

だけで価格は七、八〇万円位の

ようである。奥只見湖周辺は、

只見川の上流銀山平を湖底に

沈め、「黒四」に次ぐわが国

第二の大きさを誇るダムを見

渡たすあたりであり、魚沼三

山、尾瀬、会津駒ヶ岳に囲ま

れ立地条件は全く申し分ない。

スキーも十二月から五月まで

可能。しかも大湯から延々十

六料に及ぶ資材運搬の為のコ

ンクリート舗装のトンネル道

路が、近い将来一般に開放さ

れれば横雪期も交通が楽にな

るときている。去年学習院が

山荘用に千坪買収した例をみ

ると、坪一二〇〜一五〇円と

格安である。

次いで六、七月にOB隊に

よる那須・奥鬼怒・尾瀬・奥

日光の偵察を行う予定であつ

たが、那須・奥鬼怒偵察の結

果尾瀬・奥日光は、国立公園

特別地区である為土地入手が

非常に困難であることが判明

したので偵察を中止した。

那須は分譲地として売り出

している位に開発されてしま

つていた。奥鬼怒は全体が国

有地であり、明大WV奥鬼怒

山荘の例では営林署の認可が

仲々下らない由であつた。鶏

頂山麗の日塩道路に沿つた湿

原に、藤原町営スケート場の

旧ロッジが空家であり、交渉

次第では格安に買却してくれ

そうであつたが、こゝは付近

にワンダリングに適する場所

が少ないのが難点であつた。

現役は七月恒例のサマーキ

ャンプを菅平で行つた折、付

近を偵察して来たようである

が、未だ報告を受けていない

ので、他に候補地として偵察

を予定している裏蓼科・戸隠

・木曾福島と共に次回に報告

したい。

次に五月にお願いした山小

屋建設のアンケートの集計結

果を記す。回収総数一五通であつた。

④山小屋を持ちたいと思ひますか。

イ はい。

ロ いいえ。

ハ どちらでもよい。

ニ

⑤場所

7.志賀高原、2.鹿沢・北

八ヶ岳・奥利根、1.那

須・尾瀬・草津・上越

志賀高原を希望する方

が多いが、準備会では交

通の便で難点がある(東

京から急行使用で六時間

)ので調査の対象外とな

つている。

⑥条件

スキー・ワンダリングが

出来て交通便利な所をは

とんどの人が希望してい

る。温泉も引けたらよい。

⑦規模

大体三〇〜五〇人収容程

度。

⑧費用

個人負担 五千円

一万円

⑨利用対象

大多数の者が原則として

部員・OBとし、空いて

いる時間は何らかの方法

で一般横国大生にも開放

を希望している。

その二 夏季OB総会から

八月十五日、港の見える横

浜集会所で、関西から駆せ参

じた渡辺(享)、宮崎(裕)、

三宅の三氏を交え、総勢二五

名の参加で始終なごやかな雰

囲気のもとOB会が行なわれ

た。

席上山小屋設立の問題につ

き、改めてOB側の態度を統

一する為に討議を行なつた。

そこでこれ迄の準備会の経過

を報告した後、次の五項目に

ついて以下の結論を得た。

①山小屋建設の目的。

去年十一月の総会で山小屋

建設が提案された時から、皆

の山小屋を持ちたいという雰

囲気があるだけで、必然性は

認められない。しかし沈滞し

ているOBの活動が、山小屋

という共通の場所を得て活気

をとり戻すことになる。

②管理方法

炊事の出来る設備・道具は

備え、部員不在の期間は現地

の人に鍵を預け、定期的に見

巡わつてもらふことを最低の

条件とする。

③利用対象

現役・OBを優先し何らか

の方法で横国大生にも開放す

るが、これは実際の運営上の

問題として検討する。

④資金

準備会案の総額百万円を了

承し、諸般の事情から寄付金

は一口五千円とするが、OB

側五十万円負担の目標達成に

は、可能な者はなるべく二口

負担してもらう。但しあくま

⑤場所

準備会の規準としている諸

条件(山、スキー、交通等)

には異議なし。但し関西グル

ープの意向としては、交通の

便から中央線・信越沿線を強

く希望している。

これ迄の経緯は以上である

が、これで各位山小屋のイメ

ージも大体把握出来る状態に

なつたことと思ひます。準備

会では九月で第一次偵察を終

了し、その結果を整理報告し

て、十一月大学祭の時の現役

OBの会合で場所の決定に迄

持つて行きたいと考えていま

す。どうか会員諸氏の批判・

協力をお願いします。



\*\*\*  
 感 會 長  
 松本正雄  
 \*\*\*

某月某日 五月五日、子供  
 の日に第一期生の二番手とし  
 て晴れの結婚式を挙げた桑原

夫妻の披露宴が、第一期生だ  
 け集つて土曜の午後をついや  
 して行なつた。式にも出たが、  
 あの嬉しそうな式途上の顔一  
 それはもうこの世の幸せを独  
 りで背負つている感じで、微  
 笑を禁じ得なかつた。然し我  
 々仲間の非公式な披露宴は、  
 皆気が置けなく、恐らく才媛  
 の奥さん一文字通りで、一度  
 会うと異口同音に皆が認めざ  
 る得ないと確信する一も、口  
 の悪い仲間達に驚いたことと  
 思う。前号所載の通り、各自  
 パートナー同伴という条件な  
 ので、小生もオツカナピック  
 リ昔なじみの女人と連れ立つ  
 て出かけた処、通常虫も殺さ

ない顔の仲間が、一樣に友達  
 とも、恋人とも、婚約者らし  
 き女性ともつかない女性を連  
 れ、個性のもつた騎士ぶりを  
 発揮して、連れ立つているサ  
 マは、全く見事。

惜しいことに某学兄は、学  
 位論文とかで出られないのは、  
 何が出て来るか皆が楽しみに  
 していたのに残念だつた。大  
 体一期生は三十に手が届く歳  
 頃の割にオツに構えて、煮え  
 きらない奴が多いと見受けら  
 れる。縁は異なるもので、「遠く  
 で近きは何とやら」の俚諺も、  
 「近くて近いも」の実証をし  
 て、隣家の垣根の花を摘みと  
 つたとは、桑原氏も大したも  
 のです。ヤケて仕方なく深更  
 夜ふけるのも知らず飲み遊び  
 続けていた人もいたが、とも  
 かく楽しく過した半日であつ  
 た。これを契機に、在京一期  
 生よ、大いに奮起されたい。  
 某月某日 思い出した様に

送付されて来るスカイライン  
 誌上で、相も変わらずワングル  
 の目的云々が、若々しい情熱  
 の息吹で論じられてはいる様だ。  
 確かに運動部とも文化部とも  
 つかない性格なので、某大ワ  
 ングルのシゴキ事件ではない  
 が、数多くの問題が内蔵され、  
 リーダー会議の性格が、何と  
 なく現役サークルの中心を為  
 している様に思える。ここで  
 正面きつてこうだと言つて、  
 押しつける意向はないが、卒  
 業して五年OB会その他の仲  
 間のことを考えてみると、次  
 の様なことはいえそうだ。感  
 じとしていえるのは、

- いい仲間（友達）をもつ  
 たなあ。よかつた。
- 体力、精神力に自信とフ  
 アイトをもつたこと。
- 自然に常に親しみ、溶け  
 こみ大事にする気持を容  
 易に身につけたこと。
- 現役活動時に身につけた

団体活動の中での心得一  
 規律・礼儀・協調・統卒  
 力等が社会で役立つとい  
 ること。  
 ○常に新しいことに、興味  
 と創造力をもつて研究し、  
 実行出来、困難にも屈し  
 ない自信がもてること。  
 等が素直に感じられることは、  
 何といつても現役時代の活動  
 の賜物ではないだろうか。  
 そんな処から立ち戻つてワ  
 ングルの目的・活動方針を確  
 すべきでないかと思う。現役  
 諸氏の御意見如何。

某月某日 毎年送付される  
 名簿が、今年から現役名簿と  
 は別個に、OB会の手で独自  
 に、編集、印刷されること  
 になつた。その第一号である。  
 単なる住所録以外に工夫が凝  
 らされているのだが、お気付  
 きだろうか。各氏名の末尾に  
 (0)印のあるのは、既婚者を示  
 し、殊更その意味している処

を注書していない。

事務局会議の席上で、そんな話が出て、更に「既婚者は、結婚と同時に事務局宛、配偶者と二人で写した写真一葉と、その相手の氏名、略歴、ナレソメ等を送付し、子供が出来たら氏名等を、登録する様にしたら」との話が出た。

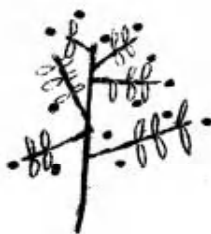
そして総会などの折り、又は事務局へ寄つた時には、そのアルバムを見て、又卒業後の新しい話題を提供することだろうと思う。諸兄弟の賛同を得たい。未だ数少ない新世帯故、今からその準備にとりかゝると、もう五年先には、アルバムが何冊もいることと思ふが如何。

名簿をアレコレと名前や顔の知らない人達を眺め廻して、ふつと面白い事柄を発見した。OB会員全員（正、準を合計して）七十九名の色どりは次の通り。

	男女別			在 住 地 別							出身学部別		
	男	女	計	京浜	関東	東北	名古屋	京阪神	四国	九州	経済	工学	学芸
第1期生	12	0	12	9	1	-	-	1	-	1	8	4	0
第2期生	8	4	12	10	1	-	-	1	-	-	1	5	6
第3期生	12	7	19	14	1	-	1	3	-	-	3	8	8
第4期生	9	6	15	11	1	1	1	-	1	-	1	8	6
第5期生	17	4	21	11	1	+	2	5	-	2	5	12	4
計	58	21	79	55	5	1	4	10	1	3	18	37	24

東海、甲信越は関東に含め、和歌山は京阪神に含める。

一寸とした分類の結果、やはり京浜には、七割近い在住会員があり、工学部出身者の多い期の会員種。地方の工場に行く率が多いことがわかる。又会員の七割がサラリーマン、残りが教職員——（大半女性）であり、殊に名古屋の4名は、嘉納先輩のススメか、毎年先輩のかつての勤務先に入社している等珍現象を呈している。四国の齊藤伸一君は、小生の郷里の市で、エンジニアの生活を楽んでいて、今正帰省の折り、元気な姿を拝した。ともあれ、こういう表から、ぼつぼつと本格的に地方支部活動にとり組む時期だと思ふ。



## 柴田部長懇親登山

### 栗駒山

#### 岩村美智子（二期）

でした。）

栗駒山という名前の山を、私は知りませんでした。たゞ失礼ながら柴田先生と御一緒なのだから、あまりきつくない山であろう。そう思つて参加してみたのです。一度先生と山を歩いてみたいとも思つていました。

一日目は、小安温泉でのんびり温泉にひたり、翌日は、体のいたくなるほど小型トラックに揺られ須川温泉までのぼりました。須川温泉といつても、山の上に国民宿舎が一軒建っているだけなのです。それからがいよいよ山歩きでした。（こんな山行は初めてでした。三日間のうち山を歩いたのはたつた四時間。後は乗つたり温泉にひたつたり

つんと立っていました。（油

であげたおせんべいが四、五枚をなえてありました）見下

ろすと、はるか下まで草原をぬつて道が続き、その先に湯

沢の町がかすんでいました。雪をいただいた鳥海もちらりと見えました。

山の頂に立つと滞りたりたような気持になるのですが、柴田先生のおだやかな様子とKさんYさんのかけあい漫才のうちへのんびりと傘などさして登つたものですから、あまり強い印象は受けず、なにか心なごむような気持を覚えしました。柴田先生の健脚ぶりはさすがでした。私達と同じペースで疲れも見せず歩いていらつしやいました。

帰りにもうひといきのところで雨に降られました。雨も又楽し、でした。

山をおりて、厳美渓を見、中尊寺で藤原氏の栄華をしの

び列車に乗りました。

#### 追記

乗り物に恵まれなかつた山旅でした。

行きに三時間も列車が遅れたため、十文字駅からの予定のバスに乗れなかつたこと。途中利用した小型トラックの代金が意外に高かつたこと。バスがストで出発があやぶまれたこと（永田さんが合流できなかつた）。帰りの列車も四時間あまり遅れて、臨時が出なければ、上野で夜明けかしますところだつたことなどです。

#### 大阪から

#### 渡辺享英（三期）

A君、最近の関西地区のO  
B会の動きをお知らせしよう。  
五月の終りに三重県と奈良県



の県境にある赤目に、関西地区の会員が集つて関西支部設立の話が決つたんだ。丁度五期生が大量に名古屋大阪近辺に集つてきた時だし話はすらすらまとまつた。これはうまくタイミングをとらえて支部会を召集したSのお手柄だね。それでも会員は、大阪を中心に東西に二〇〇キロ南北に一〇〇キロの区域に十二、三名が散らばつていただけだから、君達の京浜地区に比べたら話しにならぬくらい会員密度が低い訳だ。

だけど今のところ人数は少ないし、現役当時に一緒に歩きまわつて気心の知れた仲間だけなので割り合いまとまり易いかもれない。それに皆んな自宅から離れて生活している者ばかりだから共通の話題もあるし、かえつて京浜地区の人達よりも会員同士の結びつきは強いかもしれないね。

そういう話だから支部の行事も本部とは違い、現役の援助団体という性格からはちよつと離れて、B自身のための活動が第一の目標になるんだ。それも旧交を温めるとか、親睦をはかるとかいつた消極的な意味だけじゃなくて、ハイキングコースを歩くとか、近くのグレンデで一滑りするとかいつたような活動的な行事が多くなるんじゃないかな。毎日会社の仕事におわれていと年々山やスキー場に足が遠のいてしまひそうだから支部会でちよつびり刺戟してやるのも良いかも知れない。これから先人数が増えていつたら支部がどういふ方向に進むかはわからないが、あまり年寄りみだにだけは成つてもらいたくないね。皆んなが集つたつて、会則がどうのとか、寄付金をどうするなんという話ばかりで一日つぶす

んじやちつとも面白くないじゃないか。

とりとめもない事ばかりいろいろと書いたけど今度東京へ帰つたら活動の様子をくわしく知らせるよ。

本部の活動も支部活動の参考になると思うからぜひ話してもらいたい。

君も関西に来ることがあつたら寄つてくれたまえ。

支部員総出で歓迎するぜ。

### 三神氏 (三井物産)

### 海外研修で

### スペインへ派遣

僚友三神君(三井物産)がスペインに立つたのは6月中旬のどしやぶりの日でした。修養制度とかの海外研修(期間は二三年とのこと)で、国際的物産マンの養成のための海外派遣ですから、彼も大いに張切つており、加えて

とおぼしき女性の見送りもあり、さすがに決意も固いらしくいつになく強く握手をして、飛びたつていきました。その後の便りでは、スペイン北方の避暑地サンタンデルの大学で西語の猛勉に励んだり、また闘牛やアルタミアの洞窟の見学とか遊ぶ方にも精を出しているようです。

### 現住所

RESIDENCIA DE LAS  
LLAMAS PABELLON 3  
PLANTAS. UNIVERSIDAD  
INTERNACIONAL  
SANTANDER SPAIN



# なんだこの野郎

結婚してから一年目

藤林 徹(二期)

八月十日、夕方五時に新宿駅を発ちました。目的地は富士山のでつべん。

大学出てから就職し、嫁さんもらつてはや四年目。この間にワングルらしい朝を迎え夜を過ぎたのは実に数回で、皆様の活躍に比べてたよりなく感じます。

ところが今住んでいる所が丘の上で、かつて一期生に連れて行かれた天園の大船からの登り口に当ります。六年前の思い出を頼りに天園越えの鎌倉行に出かけたところ、昔の面影は早や失せて宅地とゴルフ場の造成にブルトーザーがうなりを立てていたのにはがっかりしました。この丘の上からは、朝夕富士山、丹沢

などの山波がみごとで、夕焼の富士山には時折感動するころもありました。

折あつて、知人の女性(二名)に、富士山に登りたいが連れて行つて欲しい。ワングルで以前山々をかつ歩いたそりですね。なんてことを云われたのが悪かつたようです。いやとは云えぬ私の素性を見抜かれて、妻も連れて四人で新宿を発つた次第です。

富士急行の宣伝で、富士登山は五合目までバス、そこから数時間で頂上、おぼあちやんでもぼうやでも、眠つていても登れます。こんな広告が頭にあつたせいから、山に久しく行かないからか、それともワングルの女性が強かつたからか、三人の女性を連れてかもしかで日本一の富士山に登ろうとしたのが失敗でした。睡眠不足と疲れから、途中で二人の女性がのびて、あと一

時間と云うところで止むなく引き返してしまいました。参つた二人の女性を連れだしたワングル男の心境たるや、こんな気を使つたことは現役の頃は一度もありませんでした。しかしながら、日の出の力強い美しさに顔を赤くし、馬喰の面白い話を聞いて、もう一度来ようと思ひました。

P.S 近くにおいでの際は、必らずお立寄りください。鎌倉街道、天神橋の上の丘(公田団地の十号棟四階の六号)

## 雨の箱根

台風がやつて来そうだといふ八月二十一日、箱根の強羅において三期会が開かれた。

出席者は遠来神戸の腰塚、京都の宮崎、静岡の高橋をはじめ、

め、齊藤、栗田、横手、白井、井上、鋤柄、甘粕、江崎、諸節、石田、平野の十四名である。卒業以来最大の人数が集まりにぎやかに一夜を過ぎた。しかしあいにく台風十七号の接近とあつて風は吹く、雨はふるでどうしようもなく翌日早々と小田原に下つた。しかし顔をあわせればじつとして連中ではない。外に出ればぬれるから室内遊戯でいこうと出かけたところがボーリング場。やはり先生方が指導格で男連中は完全に生徒。なかなか先生のいうようにはいかないもの。それでも腕力は先生よりは上らしく時々派手な事をしでかしていた。誰が一番かせいだかは御想像におまかせ致す。

(三期 井上記)

## 生活の中で

○……事務局だよりと題して事務局の動向を書くことになつていたけれど、この四月から今までの仕事といえは、山小屋の件、柴田先生との懇親登山、関西支部の件と別項にのつていることや、会報の編集、発行、名簿の作成などであつて特に書く必要はないのでやめた。なお事務局は工学部の嘉納氏の部屋であり、いつでも公開している。

○……卒業してしばらくすると名前だけが伝説的に残つちやうOBがいる。もつとも全然顔を出さないのだから、無理もなからう。現役のあるがれは誰であるかな。

○……現役の中でもOB係はよくあて名書きをするからOBの名前は大体覚えてる。そして会つていなくても知つ

ている気である。だからワンダリングに出かけ列車がある駅にさしかかり工場が見えたりするとボンとそこに勤めているOBの名前を出したりする。

○……しかし大部分の現役はOBの事など頭にない。だからOBから手紙などが来ると首をかしげてる。そしてOB係にまわされてやつと落ちつくのである。これから現役に手紙を出す時は何期とことわるか、部員番号をつけるかする必要はある。

(三期 井上)

音信不通の地方在住の諸氏、近況を編集係まで御報せ下さい。

其の他トピック、雑感なども大いに歓迎します。

## 名簿の訂正

- 一〇〇六 吉田輝義
- (住所) 静岡市北安東二七九ノ一
- 二〇一八 塚原伸一郎
- (電話) 果水寮
- (東六〇五一三八五二)
- 二〇二五 岩上克尚
- (電話) 大正小学校
- (横八八一二六一四)
- 二〇二六 齊藤彦司
- (勤務先) 神奈川県立博物館準備事務局
- (横二〇一四九二二)
- 内線九二九九
- 三〇三四 三神広臣
- 在スペイン
- 三〇四〇 栗田武寿郎
- (電話) 自宅
- (東三六二一一六四九)
- (勤務先)
- (川三一二五四一)
- 内線二七〇)
- 三〇四一 腰塚典明
- (電話) 住吉寮
- (神八五一六三三〇)
- 五一一八 羽島継男
- (住所) 浜松市西伊場町官一
- 国鉄浜松十環若草寮
- 五一二八 所 絢子
- (住所) 藤沢市片瀬二四八九

五一三一 喜多村秧子

(住所) 平塚市南金目一二九二ノ二

## ★編集後記★

九月上旬発行予定のこのOB会報第四号もヴェトナム、インド、インドネシアなど東南アジアのあわたたしい情勢にひきつられてか、ついに紅葉の美しい季節を迎えてしまいました。暮々もニューズアリアーが陣腐になつたなどいわず、新聞紙的末路にしないで十分精読され、ホルダーの中に大事に保管して下さい。様御願ひ申し上げます。

## OB会報第四号

編集責任者 吉野、米屋  
 発行責任者 松本正雄  
 横浜市鶴岡区生麦町一瓦  
 印刷 板橋 騰写堂  
 電話 (50) 五八四七